

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、  
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、  
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

### 2 中期的目標

#### 1 知的障がい教育の専門性向上

＜学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」R7まで90%以上を維持（R2:92%、R3:90%、R4:89%）＞

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援を含む）

- ア 正確なアセスメントを行う
  - イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
  - ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
  - エ 効果的な指導方法を検討する
  - オ シラバスを活用する
  - カ 小中学部からのキャリア教育を推進する
- (2) 時代にマッチした教育理論を構築する
- ア カリキュラム・マネジメントを充実させる
  - イ 教科横断的な教育課程を編成する
  - ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる
  - エ PBS（ポジティブ行動支援）に基づく指導支援を行う
  - オ 特別の教科 道徳を推進する
  - カ ICTを活用した取組みを推進する
  - キ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
  - ク 防災に努める

(3) 次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ メンターを育成する
- ウ 強い組織を再構築する

#### 2 保護者・地域・関係機関との連携

＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均) R7まで85%以上を維持（R2:86%、R3:84%、R4:82%）＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

- ア ICTを活用した連携を進める
- イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

- ア あいさつ運動を展開する
- イ きれいな地域づくりに貢献する
- ウ 寝屋川公園に作品展示を行う
- エ 民間委託された給食室と連携を図る

(3) わかりやすい最新の情報発信を行う

#### 3 働き方改革

＜学校教育自己診断の教職員肯定的評価「業務の効率化・平準化」R7まで65%以上を維持（R3新設:58%、R4:58%）＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

- ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
- イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う

(2) 業務の効率化・平準化を行う

- ア デジタル化を推進する
- イ PC内の構造化と仕事の見える化を行う
- ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す
- エ 個人情報処理業務を削減する

(3) 業務推進体制を再構築する

- ア 首席を学校経営の要として配置する
- イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する
- ウ 新しい校務分掌体制を整理する
- エ 学校経営計画を共有する
- オ 行事の見直しを行う

#### 4 地域支援 <地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施 100%>

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 地域との連携強化を図る

- ア 地域のスキルアップを図る
- イ 研修講師の派遣を行う

(2) 学校全体で地域支援を行う

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>1 結果の概要</b> 保護者対象のアンケートでは、今年度は15項目で実施した。(1項目削減、1項目文言の変更)。回収率については昨年度の82%に比べると31ポイント減少した。回答結果については、肯定的意見が90%以上の項目が4項目あった(昨年度と同様)。なお、保護者全体の「肯定的評価」の全体平均は、78.63%である(-0.62ポイント)。 教員対象のアンケートでは、今年度20項目で実施した。(4項目削減)回収率は、全体としては85.3%と昨年度より-12.7ポイントとなっている。回答結果については、教職員全体の「肯定的評価」の全体平均は、72.5%(-2.5ポイント)であった。 回収率減少(特に保護者)の原因としては、昨年度までは本校が導入しているメッセージ配信システムアンケート機能を使用していたが、今年度よりフォーム作成ツールを使用して行ったためであることが考えられる。次年度は回収率を上げられるよう、周知に努めたい。</p> <p><b>2結果と分析</b> <b>&lt;保護者肯定的評価90%以上の項目&gt;</b> 「授業参観や、学校行事で学校の様子を知ることができる。(94.6%)」 「運動会、学習発表会や校外学習、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は、子どもたちが参加しやすいよう工夫されている。(91%)」 「ホームページや緊急連絡システム(メール配信サービス)を通して、情報をわかりやすく発信している。(90.4%)」 ●新型コロナ禍も落ち着き、参観や行事など、学校での子どもたちの様子を見てもらう機会があることや、学部懇談会・給食懇談会・通学バス懇談会等の学校の取組みを伝える機会もあり、学校での様子を知ってもらえることができていることがうかがえる。 学校からの連絡については、プリント配付での連絡を削減し、メール配信サービスを活用して情報の発信を行うことで紙の削減にもつながり、個人端末でいつでも情報を確認、検索することができ、情報へのアクセスがしやすくなっていると考えられる。今後もICTを活用しながら、学校での様子等についてわかりやすく情報発信していきたい。 一方で、「色々な授業をもっとみてみたい」「いろんな教科の子どもの様子を見られる機会を増やしてほしい」などの意見もあった。今後、学校の様々な場面での、子どもたちの様子を知ってもらえるよう、参観時の教科設定の工夫や、個人懇談時に写真や動画で学校での様子をお伝えするなど、学校での子どもたちの様子を知ってもらえるよう、検討したい。</p> <p><b>&lt;保護者肯定的評価70%以下の項目&gt;</b> 「子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて、適切な指導や助言を行っている。(63.5%)」 「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。(53.4%)」 「地域とのつながりや交流の機会を設定している。(58.4%)」 「地域とのつながりや交流の機会を設定している。(58.4%)」 「地域とのつながりや交流の機会を設定している。(58.4%)」 「地域とのつながりや交流の機会を設定している。(58.4%)」 「地域とのつながりや交流の機会を設定している。(58.4%)」 ●上記4つの項目に関しては、「わからない」の回答率が高くなっている状況である。それぞれについて様々な取組みを行っているが、見づらい内容であるため、ホームページや学年だよりや校長室だより等の各種通信で情報発信に努めたい。 昨年度新設した「1人1台端末について」は、肯定的評価は低いものの、昨年度と比較すると8ポイント増となっている。本年度より、小学部5年生以上の児童生徒については個人とタブレット端末を紐づけ、個別に合わせて端末を最適化することや、児童生徒全員にアカウントを作成し、長期休み中に、休みの期間に経験したことなどを学習支援クラウドサービスに投稿する取り組み等により、タブレット端末活用について理解が深まっていると感じている。</p> <p><b>&lt;保護者と教職員の回答比較&gt;</b> 教職員回答では「適正な進路選択について肯定的評価90%」「ICT機器の授業等での活用について肯定的評価95%」と保護者の肯定的評価が低いものについてポイントが高い結果となっている。このことから、上記のとおり、情報発信の重要性が窺える結果となっている。また、「分かりやすい情報発信：保護者肯定的評価90.4%」となっているにもかかわらず、教職員肯定的評価が高い内容について、保護者評価が低いことから、情報発信における内容をいかに吟味するかが大切であるということがわかる。</p>	<p><b>【第1回 7月6日】</b> ●各学部からの報告 ・これまでは、首席からの重点取組み等の報告だったが、今回は各学部主事からの学部紹介があり、子どもたちの様子がよく分かった。 ・学部紹介の内容から、各部共に縦割りがテーマとなっていることが見て取れた。集団の編成はどのようにしていくのがよいのか。縦割りの連携を充実させて進めてほしい。 ・保護者として、中学部・高等部とどのように成長していくかとても不安だが、今回の学部紹介を見せていただき、見通しを持って安心した。</p> <p>●学部間交流 ・学部を越えて教職員が連携することで学校が一体化していく。学部間の交流で先々が見えて、成長に刺激がある。今後も続けてほしい。 ・学部を越えての交流を行うことで他の学部のことが分かり、子どもたちも保護者と同じようにも見通しを追って安心して取組みを進めていけるのではないかと考える。 ・小学部の児童が「早く高等部に行きたい」と言っているとの話が聞けてとてもよかった。</p> <p>●働き方改革 ・先生方の笑顔がなければ、子どもたちの笑顔はない。改革を進める共に同僚性も高め、先生たちが仲良くなれば、子どもたちも仲良くなる。 ・仕事が偏ってしまうことは否めない。仕事ができる人に仕事が集まっていくので、SOSを出すように自校でも伝えている。それぞれが体を大事にしてほしい。 ・3(1)ア・イのキャッチフレーズについて、なかなかここまで打ち出せないが、これくらいしないといけないのかと思う。 ・業務効率化・平準化のなかで、令和4年度はペーパーレスが推進されているが、令和5年度はペーパーレス化の記載は無くなっていたので、校内では推進されているからかと思う。</p> <p>●学校経営計画 ・初めて「キャッチフレーズ」が出された時は衝撃的であった。内容も年を超えることよくなっていく。 ・先生方の意見を吸い上げて、学校経営を行えていることは素晴らしいと思う。ただ非常に広がりやすくなるので、ポイントが大切になる。</p> <p><b>【第2回 11月9日】</b> ●防犯訓練について ・本校では、警察の方に来ていただく形はしていないので、参考にさせていただきたい。ただ、児童生徒に恐怖心や学校に対する不安感につながるのを気をつけなければならない。不審者侵入があった時の合言葉を決めるなど、その都度見直しを図っている。マニュアルについては、不審者が何を持っているかわからないので、臨機応変に考えていかなければならない。 ・保育園の防犯訓練も園児に見せないように避難させてから行っている。非常ベルだけでもパニックになる園児もいるが、方法も含めて考えていかなければならない。女性の先生もいるので、防犯グッズも扱いやすいものなどをも揃えてもらえたら嬉しい。 ・訓練をしてもマニュアル通りにいかない場合が多い。不審者等対応については、学齢期によっても変わってくると思うが、子どもたちはまず逃げることを優先してもいいのではと思う。事件が起きてからでは遅いので、ヒヤリハットのところで防げるようにしてほしい。児童生徒については、遊びも入れつつではあるが、しっかり指導も入れて行ってみたいかどうか。</p> <p>●授業研究 ・指導案の作成や初任者やミドルリーダー向けの授業研究の書籍もある。授業観察シートも授業構成要素やチームティーチングの要素も取り入れながら進めてほしい。 ・わかることが児童生徒の居場所作りにつながる、主体的・対話的な学びも大事にしていきたい。しかし、働き方改革や教職員の心身の健康の充実との兼ね合いもある。 ・働き方改革と教育の質の関係性はバランスが難しい。授業見学で専門性を高めるのは、いいことである。限られた時間の中で、どうしたらいいのかの方法を考えることができれば。</p> <p>●自立活動 ・支援教育の市教科研究会で、寝屋川支援学校の小学部の首席から自立活動について助言をいただき、とても有意義な研究会だったという意見があった。今後も、支援学校と地域の小学校とで連携を図り、支援教育について理解を深めていければと思っている。 ・教科の中に自立活動を取り入れる時には、6区分27項目をベースに取り入れれないといけない。地域の小学校においては、それが取り入れられつつあるところであるので、支援学校から地域の小学校に広げていってもらえたら。</p> <p>●全体を通して ・これまでの積み上げがしっかりあるので、これからも積み上げを増やしていき、寝屋川支援学校オリジナルの教育を作っていくしてほしい。 ・寝屋川支援学校は、緻密でいろんな課題を吸い上げている。学校協議会についても密に取り組まれているように感じる。この経営計画を基にこのまま進めていただけたら。</p> <p><b>【第3回 2月15日】</b> ●地域連携 ・地域交流、学部交流について、素晴らしい。 ・地域交流に関しては、センター的役割を深めていかなければならない。放デイ、地域と学校の連携強化が必須。交流の位置づけをどうしていくのか。</p> <p>●学校教育自己診断 ・事業所自己評価の実施義務があり、園でも決められた項目について保護者、職員へアンケートをとっている。寝屋川支援学校は項目の内容・数が整理されており、アンケートとしては答えやすいと感じた。 ・評価結果も共通した傾向があるように思うので、人材の確保、育成に関して寝屋川支援学校の内容を参考にしていきたい。</p> <p>●ICT活用 ・タブレット活用について、先生たちは活用しているのだろうけど、保護者にそれがなかなか伝わらない。休業中の様子を投稿し始めて2年、投稿数や投稿者が固定されつつあり、伸びがないのはなぜか。 ・個人情報やどう管理していくのか。漏れることはないのか、漏れたときはどうするか、システムに詳しい教職員が不在になったらどうするのか。デジタルに頼り過ぎると、大事なことを見落としている可能性もあるのではと考える。 ・研修会の実施が必要。活用しきれていない場面がある。活用できるための研修を。情報管理への怖さを減らす。情報に強い教職員から校内でどう広げるか。 ・それぞれの支援学校のカラーや強みがあると思うが、寝屋川支援学校では、それがICTの活用ではないかと考えている。ICTの中には、教職員の情報管理も含まれる。熊本大学教育学部付属特別支援学校の例のように、情報、カリキュラム・マネジメント等の部署が情報を発信していくことも可能ではないか。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R5年度値]	進捗状況
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 知的障がい教育の専門性向上</p>	<p>(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症・アスペルgerの特性に応じた指導支援を含む)</p> <p>ア 正確なアセスメントを行う ＜小学部・支援研究部＞</p> <p>イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜支援研究部・管理職＞</p> <p>ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する ＜支援研究部＞</p> <p>エ 効果的な指導方法を検討する ＜教務部・小学部＞</p> <p>オ シラバスを活用する ＜教務部＞</p> <p>カ 小中学部からのキャリア教育を推進する ＜生活指導部＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア <b>児童一人ひとりを分かり合おう!</b> ・早期に実態把握・課題検討するため「太田ステージ」によるアセスメントを年度当初に行う。</p> <p><b>明日を拓くキャリア教育プログラム!</b> ・全校で「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、グループ編成等に積極的に活用すると共に実践を共有する。</p> <p>イ <b>コミュニケーションを広げよう!</b> ・PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の導入を拡大し活用する。</p> <p><b>子どもの言葉に耳を傾けよう!</b> ・児童生徒の発達段階に応じたコミュニケーションツールを用い、子どもの言葉や考えを聞き取る双方向の指導を進める。</p> <p>ウ <b>わかる・できる・ほめる!</b> ・「観察シート」を活用した授業づくり、自立活動についての研究協議や学び合いの場の促進を図る。</p> <p>エ <b>その内容、どうやって教えます?</b> ・シラバスに沿った授業計画、「教材 BANK」「できるもん活用(授業アイデア集)」を活用し、「何を教えるか」より「どうやって教えるか」に力を発揮できる環境整備。 <b>指導しよ使いましょ!</b> ・次年度の教科書採択で、☆本を積極的に採択する。 <b>開発集団・財産共有!</b> ・教材教具、ICT活用実践交流会、教材作成講習等、教員同士の学び場を設定する。</p> <p>オ <b>「寝屋川シラバス」で12年間つなげます!</b> ・現在のシラバスの見直しを行い、12年間の繋がりを意識した授業づくりを行う。</p> <p>カ <b>支え愛・助け愛・学び愛!</b> ・各学部の児童会・生徒会が、同じ目標をもって活動する。 <b>「ちがい」を認めて共に生きる!</b> ・多様性に着目した人権学習等を通して自分や他者のよさに気づき、よりよい人間関係を築く。 <b>たのしく みんなで つなごう!</b> ・嬉しい、楽しいと感じられる児童同士が教えあう、他学年との交流の機会を増やす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・小学部において太田ステージのアセスメントを継続実施。小学部教員に向けての研修1回以上実施。1年生のグループ分け指標及び、学習指導要領の段階判定に関するアセスメントに活用する。 ・全校におけるアセスメントを継続実施し、実践を共有する。</p> <p>イ ・全校で PECS の研修を実施すると共に、PECS を活用している施設見学を実施し、全校的な活用を進める。ワークショップ受講人数昨年度比 1.3 倍</p> <p>ウ ・校長の授業観察時に、子どもの発言や意思表示を確認する場面設定があるか確認する。(全ての授業で実施) ・授業研究及び協議への参加、全員1回以上。 ・授業参観又は授業動画視聴を全員1回以上。 ・部研修、公開授業、各種研修(指導案作成、授業づくり等)の実施。</p> <p>エ ・「指導方法」に関する研修会の実施。</p> <p>・☆本の採択数の増加 150%〔7冊〕</p> <p>・研修・交流会・年度末にアンケート実施 肯定的評価 80%</p> <p>オ 運用シラバス(年間計画)の作成。</p> <p>カ ・全校行事のスローガンを作成する。</p> <p>・小学部(人権学習各学期1回) ・中学部(人権学習週間・学習年1回 交流学習 各学年年2回以上)</p> <p>・小学部全学年が全ての他学年と交流する機会を持つ。</p>	<p>(1)</p> <p>・太田ステージを活用した小学部全児童対象のアセスメントを実施。太田ステージの段階に合わせた教材の研修を実施。1年生のグループ編成の指標の一つとした(○)</p> <p>・キャリア教育プログラムを活用したアセスメントは継続実施したが、分掌改編の影響により、実践の共有までには至らなかった(△)</p> <p>・今年度ワークショップ6名受講し、昨年度比1.4倍となる。12月末に2箇所の施設見学と合同研修実施し、行動支援の幅が広がってきている(○)</p> <p>・全ての授業において場面設定の確認ができた。(○)</p> <p>・10年経験者研究授業及び協議を実施、校務等により参加できないこともあった。(○)</p> <p>・授業動画は全員が視聴できた(○)</p> <p>・公開授業として授業動画視聴の機会を多く設定した。また夏季休業中に指導案作成の研修を実施。(○) これらにより、授業研究を進める機運が高まった。</p> <p>・夏季休業中に自立活動の指導を中心に「どうやって教えるか」に視点をおき研修を実施。継続した取組みとしたい。(○)</p> <p>・新たに採択し、昨年度比171%。 ☆本の活用を進めたい。(○)</p> <p>・教材教具について、「特別支援アイデア教材」資料を各学年へ共有した。また、学部研修で学級の取り組みや教材の紹介・共有を行うと共に研修も実施した。研修後のアンケートでは肯定的評価100%(○)。 ・次年度年間計画作成済み。活用しながら見直し進めていく。(○)</p> <p>・小、中、高の児童会役員で運動会のスローガンを考え、横断幕を作成した。(○)</p> <p>・人権・交流学习共に、段階別に集合して行うことができた。「人にはやさしく」という雰囲気醸成されてきている。(○)</p> <p>・小学部全学年が全ての他学年と交流できた(○)</p>
	<p>(2) 時代にマッチした教育理論を構築する</p> <p>ア カリキュラム・マネジメントを充実させる ＜教務部・担当首席＞</p> <p>イ 教科横断的な教育課程を編成する ＜教務部＞</p> <p>ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる ＜支援研究部＞</p> <p>エ PBS(ポジティブ行動支援)に基づく指導支援を行う ＜支援研究部・小学部＞</p>	<p>(2)</p> <p>ア <b>「カリ・マネ」ってなにかね? ～はじめの大1歩!～</b> ・カリキュラム・マネジメントの考え方を周知し、教職員それぞれが「カリ・マネ」を意識し、全校的な運営を行う。</p> <p>イ <b>「行事」「授業」つなげます!</b> ・行事・授業・事前学習等の内容を見直し、教科横断的な教育課程・授業を設定する。</p> <p>ウ <b>めざせ!「主体的・対話的で深い学び」</b> ・主体的・対話的で深い学びの視点がある授業研究を行う。(10年経験者)</p> <p>エ <b>ポジティブな支援を考えよう!</b> ・児童生徒へのPBS(ポジティブ行動支援)を実践する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・カリ・マネ通信の発行。(学期1回) ・研修の実施。(学期1回)</p> <p>イ ・教務部内に係を設け、教科横断的な教育課程を作成する。</p> <p>ウ ・主体的、対話的で深い学びの内容が記載された指導案作成と授業の実施。</p> <p>エ ・PBSに関する全校研修を1回以上実施する。 ・PBSに基づいた実践事例をまとめる。</p>	<p>(2)</p> <p>・学期に1回以上発行。(○)</p> <p>・1学期は実施できなかったが、2学期に2回、3学期に1回実施。(○)</p> <p>カリ・マネについての理解が深まり、意識した運営が進んでいる。</p> <p>・小学部1年～高等部3年までの行事一覧を作成。教科との関連を意識し系統立てた授業を進めている。(○)</p> <p>・10年経験者研究授業において、主体的・対話的で深い学びの視点を持った指導案の作成・校内共有を。また授業づくり・協議の際に実践を共有できた。(○)</p> <p>・夏季教員研修で、2回 PBS の研修を実施。双方ともアンケートの肯定的意見90%以上。(○)</p> <p>・小学部で PBS に基づく支援を3ケース実施し事例共有できた。(○)</p>

	<p>オ 特別の教科 道徳を推進する ＜指導教諭＞</p> <p>カ ICT を活用した取組みを推進する ＜GIGAPT＞</p> <p>キ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する ＜教育環境部・中学部＞</p> <p>ク 防災に努める ＜生活指導部・担当首席＞</p> <p>(3) 次世代教職員を育成する</p> <p>ア 人権感覚を高める ＜管理職＞</p> <p>イ メンターを育成する ＜指導教諭＞</p> <p>ウ 強い組織を再構築する ＜管理職＞</p>	<p><b>ポジティブにティーチングでいい気分！</b> ・PBS に基づいたアプローチでの児童支援、適切行動の獲得、不適切行動の低減をめざす。</p> <p>オ <b>道徳教育を豊かに！</b> ・知的障がい特別支援学校の道徳科指導案や教材を収集して研究する。</p> <p>カ <b>これが自分のタブレット！</b> ・児童生徒の実態に応じた、1人1台端末活用を促進する。</p> <p><b>やってみよう！クラスルーム</b> ・学齢や発達段階に応じてストリーム投稿に係る操作・手順について授業に位置付ける。</p> <p>キ <b>そうだ！図書館へ行こう！</b> ・卒業後の余暇活動につながる読書教育を継続して推進する。</p> <p><b>チャレンジクラブでほっこりタイム！</b> ・自分の得手不得手を把握させ、将来の余暇活動の過ごし方につなげる。</p> <p>ク <b>防犯はもう常識！防災はもう日常！</b> ・BCP（事業継続計画）を活用した防災研修・防災訓練を行うと共に、防犯研修も行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア <b>磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！</b> ・体罰、不適切な指導等の防止に努める。</p> <p>イ <b>チーム力を発揮した授業づくり！</b> ・初任者、指導教員、指導教諭3者によるチームでの授業研究を実施する。</p> <p>ウ <b>世代・経験に応じた活躍の場！</b> ・経験年数の少ない教員は新しい学びにチャレンジ、ミドル教員は学校をけん引、ベテラン教員は専門性の継承に、それぞれが努める。</p>	<p>・PBS 専門の外部コーチを依頼する。</p> <p>オ ・道徳科の授業実践に係る「教材」「指導案」等について共有する。</p> <p>カ ・端末の各種アプリケーション活用のための配備。（小学部全クラスに2台） （5年生以上の児童生徒に1人1台を紐づけて使用） ・児童生徒が端末を効果的に活用する授業づくりのための研修年1回。 ・端末活用をリードする学習グループの実践共有。 ・ストリーム投稿に係る授業を全学年実施する。</p> <p>キ ・図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の10%）</p> <p>ク ・総合的な活動の時間に複数のクラブを設定して実施。（学期2回）</p> <p>・実際の災害時を想定した避難訓練実施。年2回 （地震1回、火災2回、Jアラート1回含む）</p> <p>・避難訓練前に事前指導を行うと共に、希望する学級で備蓄食の食事体験を実施。 ・寝屋川警察署の方を招いて校内防犯訓練及びさすまた指導の実施。</p> <p>・不審者対応、防犯マニュアル改訂の実施</p> <p>・学校安全の構築を目的とした、防犯研修への参加。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・体罰・不適切な指導を起させないための人権研修を年1回実施。</p> <p>イ ・年度初めに3者で、役割・目標・スケジュールを確認し、年間計画を作成。 ・指導案作成、研究授業、事前・事後授業等を3者で協議しながら進める。 ・教育実習生、初任者の指導のための、「指導案作成」「授業づくり」の全校研修実施。年1回 ・教育実習生の指導教員の相談役として指導教諭を位置付ける。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断教職員評価 「次世代教職員の育成」75%〔70%〕 「学校経営への参画」55%〔49%〕 「教職員での話し合い」90%〔86%〕</p>	<p>・大阪教育大学の准教授がSVとしてケース検討に参加。（○） これらを基に、学校全体に取組みを広げていく方法を検討中。 ・道徳科に関連する絵本を購入。授業づくりの素材として全学年で共有した。（○） ・端末の配備と5年生以上の児童生徒への紐づけが完了。児童生徒による学習ツールとしての活用が進む。</p> <p>・端末活用をリードする学習グループから6事例を選出して実践を共有し、授業づくり研修を実施した（○） ・複数の学年でストリーム投稿を題材とした授業を実施。発達段階に応じた授業実践ができた。 ・家庭からのストリーム投稿活動を全校で実施。長期休業中も児童生徒と繋がることのできた。（○） ・図書室の本を整理整頓し、本の種類ごとに棚を分けることで、検索しやすくなった。（○） ・購入希望を募り、新規図書の購入を行うと共に、本の廃棄が可能になるよう、図書室の蔵書リストの作成を行った。目標の10%には達しなかったが、リストが完成したことにより、次年度はより入れ替えが進めやすくなった。（△） ・学年ごとに年間計画を立てて、目標回数以上に実施できた。生徒間の関係性構築に効果があった。（○） ・目標回数の実施ができた。（○） 火災訓練は出火場所を知らせず当日の緊急放送を聞いて、安全な避難ルートを考え避難した。地震訓練は火災も想定し、出火場所と避難ルート確認にトランシーバーを活用。また、ヘルメットを児童生徒に着用させた。 ・保管期限を迎える備蓄食を希望する学年で防災教育として活用した。（○） ・担当がさすまた講習会へ参加し、生活指導部内で伝達講習を行った。（○） ・不審者対応訓練を実施し、寝屋川警察から講話をいただき、本校の不審者対応の再確認・マニュアルの改訂を行った。（○） ・担当が大阪府防犯教室講習会に参加し、付属池田小校長の講話や大阪府警の講話を聞き、本校における不審者対応や防犯マニュアル改訂に反映させた。（○） 次年度も継続して危機管理意識の向上に取り組む。</p> <p>・夏季休業中に実施。職員会議等でも適宜周知している。継続して人権尊重に努めていく。（○） ・3者で連携して計画を作成した。（○） ・短時間の協議を重ねることで授業づくりの研究が進んだ。（○） ・全校へ研修を実施した。（○）</p> <p>・全体研修に併せ、指導教諭による指導教員への個別の助言を実施。（○） 指導教諭が学部を越えて助言することで、学校全体の授業研究の機運が高まった。 ・教職員評価結果 「次世代教職員の育成」63% 「学校経営への参画」42% 「教職員での話し合い」70.5% （△） 分掌組織を大きく改変、カリキュラム・マネジメントの専門家を招聘し研修を行う等の新しい取組みを進めたため戸惑いがあったのではないかと推測する。継続実施していくことで、理解を促していきたい（△）</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 保護者・地域・関係機関との連携</p>	<p>(1) 保護者との連携を深める ア ICT を活用した連携を進める &lt;GIGAPT・担当首席&gt;</p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る &lt;保健室&gt;</p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア あいさつ運動を展開する &lt;生活指導部&gt;</p> <p>イ きれいな地域づくりに貢献する &lt;小・中学部&gt;</p> <p>ウ 寝屋川公園に作品展示を行う。 &lt;管理職&gt;</p> <p>エ 民間委託された給食室との連携を図る &lt;健康教育部&gt;</p> <p>(3) わかりやすい最新の情報発信を行う &lt;情報教育部&gt;</p>	<p>(1) ア <b>ICTの活用で、もっとつながる家庭と学校!</b> ・ストリーム投稿等、ICT 活用の理解推進とルールの周知を行う。</p> <p><b>写真販売も Web の時代!</b> ・写真販売を Web で行い、保護者の生活時間の確保、円滑な連携を図る。</p> <p>イ <b>ようこそ相談室へ!</b> ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。</p> <p>(2) ア <b>愛さつ運動で通じる心、つながる気持ち!</b> ・挨拶推進月間を通して挨拶の習慣づけを行い、朝の散歩等で地域の人への積極的な挨拶により、互いの理解を深める。</p> <p>イ <b>みんなで楽しく、地域がキラキラ!</b> ・きれいな地域づくりに貢献する活動を行う。</p> <p>ウ <b>作品展示を通じた地域との繋がり強化!</b> ・寝屋川公園内「森の展示室」に出展し、地域の方々と作品を通じた交流を行う。</p> <p>エ <b>開かれた給食室!</b> ・民間委託となる調理員に児童生徒がインタビューする等、給食について知る機会を設定する。</p> <p>(3) <b>学校のこと、伝えます!</b> ・ホームページを活用した、最新の情報発信に努める。</p>	<p>(1) ア ・新1年生のパスワードソフト及び学習支援クラウドサービスの準備完了。  ・クラウドサービスの安全性と活用の理解のための通信作成及び説明会実施。  ・写真販売システムの導入。</p> <p>イ ・学期に2回以上の実施。</p> <p>(2) ア ・挨拶推進月間の実施。各学期1回(中学部)  ・年間を通しての挨拶運動実施。</p> <p>イ ・寝屋川公園の清掃活動を行い、きれいな地域づくりに貢献し、地域との交流を深める。 ウ 年間2回以上の出展。</p> <p>エ ・児童生徒によるインタビュー。年1回  ・給食についての動画の作成。</p> <p>(3) ・定期更新とメンテナンス 50 回以上。</p>	<p>(1) ・新1年生へのアカウント配付が1学期中に完了。全校のクラスルーム投稿が実施できた。(○) ・説明会の機会は設けられなかったが、長期休みのクラスルーム投稿の実施要項に、クラスルームの安全性に関わる内容を記載し配付した(△) ・Web 上で写真販売を実施。保護者からは概ね好評価をいただいている。(○) ・年間で9回実施した。毎回相談希望者を募集し3名程度の相談を受けている。(◎)</p> <p>(2) ・計画では推進月間を実施であったが、生徒と共に検討し毎日実施となった(◎) ・児童生徒会役員が、登下校時に毎日率先して挨拶運動を行った。挨拶のプラカードや旗などを使い、視覚的な支援を行いながら挨拶運動を実施した。(○) ・小中学部共に公園の清掃活動を行った。公園職員の方にもお声掛けいただいた。(○) ・各部毎に年3回の出展を行った。校長室だよりでもその旨を伝え、好評を得ている。(◎) ・それぞれの学部代表による、調理員さんへのインタビューを実施。(○) ・「カレーが作られるまで」の動画を作成。(○) ・2つを合わせて、1月の全校集会日に各部、各クラスでビデオ視聴を実施した。 ・定期的にホームページ更新とメンテナンスを実施している。年間 60 回実施した。(◎)</p>
	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 働き方改革</p>	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる &lt;管理職&gt;</p> <p>イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う &lt;管理職&gt;</p> <p>(2) 業務の効率化・平準化を行う ア デジタル化を推進する &lt;情報教育部・教務部&gt;</p> <p>イ PC 内の構造化と仕事の見える化を行う &lt;担当首席&gt;</p> <p>ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す &lt;教育環境部&gt;</p>	<p>(1) ア <b>1に健康 2に生活 34がなくて 5に仕事!</b> ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。</p> <p>イ <b>あっ! 定時や! か〜えろっと!</b> ・会議日程や方法を検討すると共に、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う。</p> <p>(2) ア <b>!(いつも) C (ちょっと) T (トライ) できるICT活用!</b> ・指導者の ICT 活用能力を高めると共に、適切な機器管理を進め、独自システムの持続的・効率的な運用と体制づくりを行う。</p> <p><b>乗るしかない! このビッグウェーブ!</b> ・ICT 活用を更に促進し、「教材 BANK」「できるもん活用(授業アイデア集)」の活用を促進させる。 <b>教材もアイデアもリユースがスタンダード!</b> ・作成した「教材 BANK」「授業できるもん」を活用し、教材作成の時間を短縮する。</p> <p>イ <b>仕事サクサク・効率アップ!</b> ・構造化した PC の活用を進めるため、セキュリティモードとインターネットモードの活用方法を明確にする。</p> <p>ウ <b>ひと・もの 大切に!</b> ・備品、教材等の管理と整理を行う。</p> <p><b>むり・ムラ・無駄ない安心安全な学校!</b> ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。</p>	<p>(1) ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを今年度より下回る。〔105〕</p> <p>イ ・時間外勤務実績 R4 年度比 10%削減。〔R4 4月~12月実績 27,800H〕</p> <p>(2) ア ・活用スキルの段階別研修実施 1 回以上。 ・備品管理台帳の作成と管理。  ・システム運用のための人材育成研修 1 回以上。  ・「教材 BANK」「できるもん活用」の全教科作成。  ・年度末にフォーム作成ツールで確認。活用率 50%以上</p> <p>イ ・セキュリティモードとインターネットモードのデータ移行が完了する。</p> <p>ウ ・各部の職員室ロッカー、教材倉庫の整理整頓の実施。(各学期 1 回)</p> <p>・毎月の安全点検の実施とフィードバック。</p>

	<p>工 個人情報処理業務を削減する ＜管理職＞</p> <p>(3) 業務推進体制を再構築する</p> <p>ア 首席を学校経営の要として配置する ＜管理職＞</p> <p>イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する ＜管理職＞</p> <p>ウ 新しい校務分掌体制を整理する ＜管理職・教務部＞</p> <p>エ 学校経営計画を共有する ＜管理職＞</p> <p>オ 行事の見直しを行う ＜健康教育部＞</p>	<p>工 <u>溶解にして、他の仕事しようかい！</u> ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。</p> <p>(3)</p> <p>ア <u>強化します！首席間連携・教頭との連携</u> ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。</p> <p>イ <u>全校見守る指導教諭！</u> ・指導教諭が学部を超えて、教員の授業力向上を図る。</p> <p>ウ <u>変わるらしいで～！</u> <u>(知らんけど、とは言うてられへんで)</u> ・分掌改編に合わせて役割を具体化し、次年度へ引き継ぐシステムの整理。</p> <p>エ <u>みんなで見よう！学校経営計画</u> ・校内に拡大した学校経営計画を掲示し、目標の実現に向け教職員で共有する。</p> <p>オ <u>競技中心の楽しく充実した運動会！</u> ・マスゲームのない、充実した運動会を企画する。</p>	<p>工 ・溶解処理の計画・実施を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・総括首席を指名する。 ・首席を教頭補佐とする。</p> <p>イ ・指導教諭が全校の初任者・10年経験者・指導教員の指導にあたる。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断の教職員評価「業務の効率化・平準化」60%以上〔58%〕</p> <p>エ 校内に拡大した学校経営計画を掲示する。</p> <p>オ ・マスゲーム数・所要時間・係業務がR4より減少する。 ・運動会実施後教員向けアンケートの「昨年度と比較した負担感」で肯定的評価60%以上。</p>	<p>認、補修依頼を行っている。(○)</p> <p>・校内で大規模な工事が行われ産業廃棄物を処理したため、学校管理費の委託料が当初の想定以上に必要となり、書類の溶解処理のための予算の確保が困難な状況となる。(△)</p> <p>(3)</p> <p>・総括首席指名済み、首席を取りまとめている。(○)</p> <p>・教頭横に首席の座席を設け、連携を図っている。(○)</p> <p>・初任者・指導教員・指導教諭で連携しながら研究授業の一連の研究に取り組み、短時間の協議を重ねながら授業づくりを進めている。教育実習の指導教員に、指導案作成等についての助言を実施。(◎)</p> <p>・教職員評価結果「業務の効率化・平準化」52.5%(△)</p> <p>次年度に向け、新たな方策を検討中。</p> <p>・校長室前に拡大した学校経営計画を掲示した。(○)</p> <p>・入退場を省略し、競技中心の運動会を実施することで実施時間の短縮ができた。運動会実施後教員アンケートでも時間短縮については良好な意見が多く60%達成(○)</p>
4 地域支援	<p>(1) 地域との連携強化を図る</p> <p>ア 地域のスキルアップを図る ＜支援部、LS担当指導教諭＞</p> <p>イ 研修講師の派遣を行う ＜支援部、LS、担当指導教諭＞</p> <p>(2) 学校全体で地域支援を行う ＜支援部、LS、担当指導教諭＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア <u>Power of connect (連携強化)</u> ・各市の教育委員会との連携を図り、訪問相談をより充実させると共に、地域のコーディネーターのスキルアップを図る。</p> <p>イ <u>夢中になれる学びの場！</u> ・市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。</p> <p>(2) <u>Co development (コーディネーター育成)</u> ・登録相談員制度に教職員全員が登録し、一緒に訪問に行くことで、次世代のコーディネーターの育成に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・全ての訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施。</p> <p>イ ・すべての要請に対応する。 〔支援回数 60回 (訪問・来室・電話相談、研修講師)〕</p> <p>(2) ・LS以外の教員との訪問相談3回以上。</p>	<p>(1)</p> <p>・大東市研修講師4回 寝屋川市研修講師2回 スキルアップを図れた(○)</p> <p>・全ての要請に対応した。42件(○)</p> <p>・LS以外の教員と訪問相談を2回実施した。(△)</p>